

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝浦 伸行 様



報告年月日	令和4年2月21日		
実施日(期間)	令和4年1月24日		
実施場所 (行先等)	全員協議会室		
事業区分 (いずれかに○)	○研 修 調査研究 要望・陳情活動 会 議		
事業内容	オンライン研修会 「議会力をアップさせる議員報酬・定数・政務活動費		
報告者	(会派名) 日本共産党一関市議団 (岡田 もとみ ●)		
参加者	議員 岡田 もとみ ● 議員 齋藤 禎弘 ● 議員 千葉 栄生 ●		
報告要旨	1. 目的 議員の在り方の基本についての研修 2. 概要 議員の定数、報酬、政務活動費の考え方 3. 参考とすべき事項・所感 議員定数、議員報酬、政務活動費の考え方を学びました。 答えは全ての議会で異なり、基本的な考えに忠実であるべきだとのことでした。		
主要 資料名	自治日報記事のコピー4部		

【報告要旨】

- 議員報酬と定数について考える場合、住民自治を充実させるための条件として考えなければならない。
- 定数を削減し、議員報酬総額を変えずに個々の議員報酬を引き上げることは、バナナのたたき売りや山分け論に過ぎず、厳に慎むべきである。
- 議員報酬を考える場合、原価方式、比較方式（類似団体比較）、収益方式（成果重視）などが考えられ、各々一長一短がある。
- 近年、全国に広がっている会津若松市議会モデルでは、原価方式を基礎に議会活動、議員活動、議会活動・議員活動に付随した活動、それ以外の議員活動を中心にそれぞれ時間を選定。そこで算定された時間数を、首長の活動日数と比較し、首長の給与から議員の報酬を算出している。
- 定数について、討議できる人数を基準とすべきである。委員会を採用しているのであれば一つの委員会につき、少なくとも7～8人必要であり、その人数に委員会数を乗じたものを定数とする必要がある。

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 様



報告年月日	令和4年2月22日		
実施日(期間)	令和4年1月27日		
実施場所 (行先等)	紫波町オガールプラザ		
事業区分 (いずれかに○)	研 修	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究	要望・陳情活動 会議
事業内容	町づくり先進地視察		
報告者	(会派名) 日本共産党一関市議団		(代表者) 岡田 もとみ
参加者	議 員 岡田 もとみ	議 員 齋藤 禎弘	議 員 佐藤 真由美
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)		
	別紙		

別紙(1)

別紙 (1)

* 町づくりにおける取り組み方を学ぶため先進地を視察し教養を高める。

別紙 (2)

* オガールプロジェクト (オガール標準コース) 説明と施設案内

○ 紫波町の特徴と現状について

- ・ SDGs を 20 年前から取り組んでいる。
- ・ 果樹生産地で、ブドウ生産と 6 次産業としてワインを作っている。
- ・ 全ての木材それも地元木材を主とした循環型まちづくりに取り組んでいる。
- ・ 人口は減少傾向にあるが駅前の住宅地の地価が少したが上昇しそれなりの成果はあった。

○ オガールとは？

- ・ 請願実現駅である紫波中央駅を「紫波の未来を創造する出発駅とする決意と、このエリアを出発点として持続的に成長していく願いを込めた。

○ オガール紫波株式会社について

- ・ 官と民が連携をするためのエージェントの役割を担う。
- ・ 今は産直が主になっている。

○ オガールエリア内施設の配置と概要について

- ・ 全てが別区開発になっている。

○ これまでのながれ (背景・要素) について

- ・ JR が新駅設置のためには、地元負担と乗降客確保を条件に示し、寄付活動で 2.7 億円を集め、乗客確保のため駅前開発 10、7 宅地分譲・公共施設集約など日詰西地区土地利用基本計画を進めた。
- ・ 実質公債費比率の上昇、基金減などの理由から事実上計画凍結となり、約 10 年間塩漬けの土地となった。

○ 紫波町公民連携基本計画について

- ・ 図書館が欲しいとの住民要望が強くそれを柱とした。
- ・ 町民の資産である町有地を活用し、財政負担を最小限に抑えながら公共施設整備と民間施設等立地による経済開発の複合開発を行うこと。

○ オガールプロジェクトの手順について

- ・ 「町民の財産である町有地を安売りしない」を目的とし、岡崎氏の持論で「まちづくりとは、不動産価値の上昇である」を取り入れた
- ・ 逆アプローチの不動産開発を行った
- ・ 年 30 万人利用を目標にした

- プロジェクト関連組織について
 - ・町とオガール紫波(株)は特命契約と同じ
 - ・町と市民は中心に産直ワークショップを開催している
- オガールデザイン会議について
 - ・魅力的なまちづくりを推進するため、施設設計・デザインの調整をはかる
- 岩手県フットボールセンターについて
- オガールタウン日詰 21 区について
 - ・紫波型エコハウス基準を満たす住宅(町産木材利用など)
 - ・指定事業者 町内 13 社、地域熱利用 46 世帯
- オガールプラザ（官民複合施設）について
- 「 」 の事業ストラクチャーについて
- エネルギーステーションについて
 - ・地元間伐材を使っている。
- オガールベース（民間複合施設）について
- 紫波町役場庁舎について
 - ・木造 3 階建て、地域熱供給による冷暖房システムなど
- オガールセンター（官民複合施設）について
- オガール保育園（民設民営）について
- 令和 2 年度オガールプロジェクトの実績について
 - ・合計利用者数 約 80,3 万人
- プロジェクトがもたらした効果について
 - ・周辺地域への民間投資誘発、地元企業共同体による施工、身の丈事業など
- オガールエリアの PPP 手法について

別紙 (3)

- * プロジェクトを進めるうえで必要なことは、民に委ねる勇気が行政にあるのか、パブリックを持った民があるかが重要だ。
- * 循環型まちづくりで環境と福祉の町づくりに取り組むべき。
- * 住民に対し計画や目標は明確にする必要性が再認識させられた。